



にぶたに湖の右岸側に所在するイオルの森 この場所を含む平取町の森林でアットウシの材料になる樹木が育てられている

平取町の森林とアットウシの継承

平取町では平成 20 年以降、地域の森林にアットウシ（樹皮の織物）の材料になる木を植樹しています。地域の暮らしで受け継がれてきたアットウシの手わざをしっかりと継承していくことを目的とする施策です。アットウシの素材になる樹木が幾つかある中で、最も良質な靱皮（樹木の外皮のすぐ内側にある柔らかな部分）が採れるのはアツニ（オヒョウニレの木）^{じんぴ}と言われています。この木が育って素材を採取できるようになるまでには、少なくとも 20～30 年くらいの年月がかかります。

こうした活動をとおして平取町が目指す姿は、アットウシの素材になる木の植樹と採取、手わざの継承、後継者育成、二風谷ならではのものづくりと物販という循環づくりです。平成 25 年には「二風谷アットウシ」が経済産業省の指定する伝統的工芸品となり、同 31 年 4 月に二風谷民芸組合の作業所である「平取町アイヌ工芸伝承館ウレシパ」が整備されました。

二風谷は、北海道の中でアットウシづくりが途切れることなく続けられている地域です。世界に誇るアットウシの手わざの継承は、日本列島にある文化の多様性を保全していく上でも大事なことと言えます。

（長田佳宏）



地域住民らによる有用木本類の植樹会



ウレシパで行われているアットウシの後継者育成

博物館実習生を受け入れ

8月14日（水）から20日（火）までの7日間、博物館学芸員の資格取得に伴う実習を二風谷アイヌ文化博物館と沙流川歴史館で行いました。今年の実習生は、北海道大学2名、法政大学1名、神奈川大学1名で、一度に行う実習としては過去最多の4名を受け入れました。

実習は7日間の日程にチプサンケ（舟・下ろす：舟おろしのお祭り）を挟むようにし、二風谷ならではのアイヌ文化継承・お祭りを自ら体験して学ぶ内容としました。学生たちには、チプサンケを受け継ぐ地域の想い、博物館と実行委員会との関わり、住民一人一人の役割や動き方等をしっかりとまとめて大学にもち返るようアドバイスしました。その他、民具資料の養生など、学芸員業務の基本を学ぶための実習を行ないました。将来、どこかの博物館で学芸員として、活躍してもらいたいと思います。

（長田佳宏）



4人で相談して博物館のミニ展示を検討



チプ（舟）の文化継承をとoshた住民とのふれあい

日本聖公会北海道教区 150 周年記念事業 二風谷アイヌ文化博物館 第 27 回特別展 移動展 英国聖公会宣教師ジョン・バチラーの足あと

ー伝道活動とアイヌ文化研究ー

期間：7/10（水）～7/16（火） 場所：札幌キリスト教会（札幌市北区北8条西6丁目）

当展示は令和3（2021）年度の二風谷アイヌ文化博物館特別展の移動展として札幌キリスト教会で開催されました。7日間の来場者総数は508名で、うち300名強が聖公会関係者以外の方々です。7月13日（土）には、平取町立二風谷アイヌ文化博物館・二風谷アイヌ語教室共催のバス見学会参加者29名で見学に行きました。礼拝堂で教会員の鈴木幸夫氏よりアイヌのキリスト教宣教のお話を聴いたあと（写真1）、展示を観覧しました（写真2）。

（廣岡絵美）



写真1：礼拝堂で鈴木氏の解説を聴く様子



写真2：展示を観覧する様子

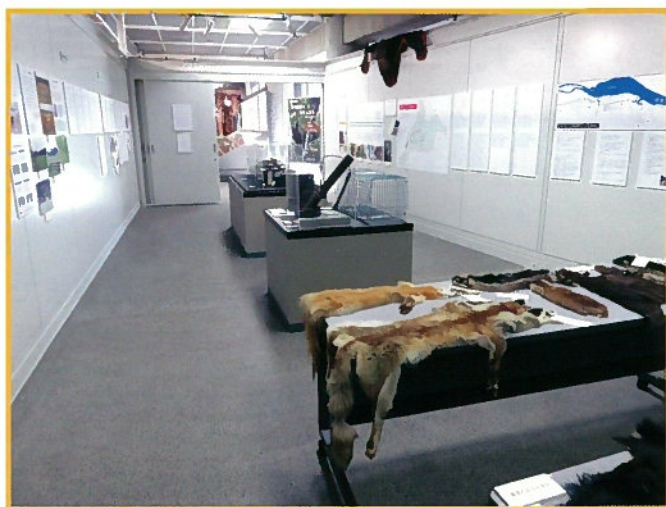
開催中！

令和 6 年度沙流川歴史館特別展

沙流川歴史館では 12 月 1 日（日）まで令和 6 年度特別展を開催しています。

今回は「野生動物とわたしたちー狩猟と駆除と共存ー」をテーマに、人と野生動物がより良い関係を保ち暮らしていくためには何が必要なのか、また野生動物に対してわたしたち人間はどのように付き合っていけばよいか、展示をとおして考える機会にしてもらいたいと思います。

クマやエゾシカの頭骨や毛皮、狩猟用のわなの展示、町内で撮影された野生動物の映像も上映していますので、是非ご観覧ください。（入館料無料）



展示風景

終了報告

文化的景観20年パネル展

8月6日（火）から9月1日（日）まで「文化的景観 20 年パネル展」を開催しました。文化的景観が、平成 16 年の文化財保護法の改正により文化財として位置づけられてから今年で 20 年を迎えたことから、その節目として実施しました。文化的景観は、日本の多様な風土の中で長い年月をかけて築き上げられた特徴的な景観を受け継ぐ土地をいいます。平取町も平成 19 年に「アイヌ文化の伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」として全国 3 番目の重要文化的景観に選定されています。

今回は、全国で 72 か所選定されている重要文化的景観のうち「すまいの知恵」「水と暮らし」「暮らしの道」「地形となりわい」「文化の舞台」の 5 つをテーマにそれぞれ対照的な 2 か所の地域のパネルを紹介し、あわせて二風谷の文化的景観 3 か所も展示しました。今後も平取町の文化的景観を多くの人に知ってもらうための取り組みを進めていきます。

（津川貴晃）



パネル展の解説風景

学芸員のへや ①ヒグマの冬眠

新コーナー!!



10月から沙流川歴史館では特別展「野生動物とわたしたちー狩猟と駆除と共存ー」を開催しています。この特別展で取り上げられている動物のひとつがヒグマです。今回このコーナーではヒグマの冬眠について紹介します。

野生のヒグマは12月から3～5月にかけて穴のなかで冬眠をします。「寒さから身を守るため」と思われるかもしれませんが、実は少し違います。

ヒグマは寒い環境でもエサがあれば耐えることができます。冬眠するのは、冬になると森に木の実などの食料がなくなってしまうので、余計なエネルギーを使わないようにするためです。その証拠に、冬もエサを与え続けている動物園では、暖房をつけていなくてもヒグマが冬眠せずにいることが多いです。

知床では、ドングリが豊作の年は12月になっても雪を掘って食べ続けていたり、遅くまでサケが遡上した年は1月にもサケを食べているクマがいたことが報告されています。

同じクマでもアザラシが主食のホッキョクグマは、アザラシを捕まえられない夏になると少し体温を下げ、体の機能を低下させながらエネルギーを節約して過ごします。穴にこもるわけではないので「歩く冬眠」と呼ばれるそうですよ。

クマは冬眠中は全くの飲まず食わずで、排泄をすることもあります。体温は平熱から4～6℃下がります。そんななか、メスは冬眠中に出産をします！生まれたての赤ちゃんヒグマはネズミのように小さいのですが、お乳を飲んで成長し、5月ごろに穴から出てくるときには体重5kgほどになります。

歴史館には特別展期間中、赤ちゃんヒグマの実物大ぬいぐるみも展示されています。重さも実物と同じなので、持ち上げてその大きさを確かめてみてください！

(西 希)



今回から新人学芸員2人が交代で担当をしています。
皆さん、よろしく
お願いします。
お楽しみに!!

生まれたての子グマ（右側）と、穴から出てきた子グマ（左側）の実物大ぬいぐるみ

(知床財団提供)

芽生で見つかったヒグマの足あと

(アイヌ文化保全対策室提供)

アイヌ語を覚えてみよう ㊤

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、秋から初冬に関するアイヌ語を紹介します。

アイヌ語	日本語
※ チュク	秋 
※ マタ	冬
※ カムイチェプ(カムイ・神 チェプ・魚)	鮭
※ カムイカルシ(カムイ・神 カルシ・きのこ)	マツタケ
※ ユクカルシ(ユク・鹿、熊 カルシ・きのこ)	マイタケ
※ ハッ	ヤマブドウ 
※ クッチ	コクワ（サンナシ）
※ マタタンブ	マタタビ
※ ヤム	栗 
※ ニヌム	クルミの実
※ ウパシキキリ(ウパシ・雪 キキリ・虫)	雪虫 
※ スサム(スス・柳 ハム・葉)	シシャモ 
※ クルッペ	霜 

萱野茂のアイヌ語辞典(三省堂)で チュク(秋)を引くと以下のような例文が付いていました。

タン チュク アナクネ チェプ ヌウェ アン アタッ ポロンノ ア・カラ エアシカイ =今年の秋はサケがたくさんあるから、開き干しのサケをたくさん作ることができる。

たくさんの蓄えがあれば長い マタ（冬）を迎えるにも、とても安心ですね。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラシ ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）
（生涯学習課 関根健司）

沙流川流域の野鳥たち No.12

スズメ目スズメ科

観察難易度：★☆☆☆

スズメ

学名：Passer montanus 漢字名：雀

英語名：Eurasian Tree Sparrow

アイヌ語名：アマメチカッポ【amam-e-cikappo】

大きさ 全長14cm 体重 20g 翼開長 22.5cm

生態 最も身近な野鳥のひとつ。茶色い体に黒い縦斑がある。頭は茶褐色で目の周囲から喉が黒く、ほおに黒い模様がある。胸から下は白色。くちばしは太く短い。オスもメスも同色。

雑食性で穀物や種子、昆虫類や残飯なども食べる。地上では両足をそろえて飛び跳ねる「ホッピング」という歩き方をする。飛翔は直線的ですが、急に飛ぶ方向を変えたりすることもできる。

鳴き声 さえずり「チュ、チュッチュン」

地鳴き「チュンチュン」「ジュジュジュ」など

生息場所 市街地、住宅地、集落などの人家周辺。基本、人のいないところには生息しない。

行動 人家の壁の隙間、換気口、煙突、建造物の隙間などに巣をつくる。年に1～3回卵を産む。非繁殖期には群れをなして、草原や河川敷等にも現れる。乾いた砂地にくぼみを掘って砂を浴びる。砂浴びには羽毛についたダニやシラミなどの寄生虫を落とす効果があると言われている。鳥の大きさなどを比較する場合の基準となる「ものさし鳥」と呼ばれる鳥のひとつです。（久米智江）



ヒナにエサを与える親鳥
太田裕子氏（新冠町）提供写真〔2枚〕



アイヌ文化との関わり

- ・スズメは家の神と火の神の言うことを聞きながら暮らしているのだからいたずらで巣をさわったりするのではないと言われました。またスズメが穀物を食べてしまっても全て食べるわけではないからと好きに食べさせました。
- ・人間から注目されなかったスズメの神が、人間の国で優しい娘さんから穀物をたくさんもらいます。しかし、その娘さんが死んでしまい恩返しのため、悪神から娘さんの魂を取り返すという、小さなスズメの神が大活躍したお話があります（日高地方の伝承）。

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌ民族と近代開拓】

テーマ1：学校(6)

渡辺誠(1876-1948)は旧水戸藩士の小泉家で生まれ育ちました。明治22(1889)年に長兄の小泉正保が屯田兵参謀に命ぜられ、一家で渡道しました。

小泉の第4人のうち、渡辺誠を含めた3人が兵役を逃れるために他家の養子となりました。渡辺はキリスト教に入信し、大阪の三一神学校で学びました。

明治31(1898)年に設立された日本聖公会新冠講義所(現新冠郡新冠町高江185付近)で、渡辺は明治36(1903)～同38(1905)年まで伝道師を務めました。講義所の設立当初から着任していた鈴木雅彦伝道師(注1)は、英国聖公会宣教協会の宣教師ジョン・バチラー(1855-1944)に教えを受けました。鈴木は講義所でアイヌの子弟に教育を行いました。

渡辺誠は明治40(1907)年に姉去土人学校(現新冠町大富197-1内)の校長兼教員となりました。



▲ 渡辺誠の肖像写真。

写真出典：山本融定『日高國 新冠御料牧場史』(1986)



▲ 新冠講義所前のジョン・バチラー(写真左)と鈴木雅彦。写真出典：新冠町史編さん委員会『続新冠町史』(1996)。

大正5(1916)年の姉去コタン住民の強制移住の際は自らも家族を連れて上貫気別に移住しました。同年に上貫気別尋常小学校の代用教員となり、大正11(1922)～昭和8(1933)年までは校長代理を務めました。

渡辺は差別的な発言をする大人をいさめたり、妻ユミは児童に着物や食べ物を与えるなど、物心両面でコタンの子どもたちを支えました。

孫の木村詔子^{しょうこ}氏が祖母ユミから聞いた話によると、渡辺が校長になった頃は、児童たちに足袋を配布していたそうです。渡辺が小樽の問屋に出向いて生地を注文し、届いた生地でユミが型を取り、息子の敏(注2)がミシンで足袋を縫いました。

(廣岡絵美)

注1 鈴木は逝去する前年の大正11(1922)年まで講義所で奉仕した。

注2 渡辺夫妻の7人の子どものうち、6番目にあたる。木村詔子氏の父親。

平取町開拓財産展示施設(平取町字荷負77-3) 見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■特別展

『沙流に伝わるアイヌの着物の継承』

—想いと技と—

期 間：10月8日(火)～12月8日(日)

場 所：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

休館日：11/18(月)、11/25(月)、12/2(月)

■特別展関連イベント

期 日：11月10日(日)

場 所：沙流川歴史館 レクチャーホール

◇上映会 13:30～15:00

『フィシスの波文』

◇講演会 15:15～16:10

『映画でめぐる文様の世界』

—アイヌ文様と手仕事—

講 師：映画プロデューサー 河合早苗氏

■休館日のお知らせ

冬期間 (12月16日～1月15日)

の1ヶ月間は、館内整備のため

休館します

(佐々木知代)

沙流川歴史館

■特別展

『野生動物とわたしたち』

—狩猟と駆除と共存—

期 間：10月1日(火)～12月1日(日)

場 所：沙流川歴史館 企画展示室

休館日：毎週月曜日

(月曜日が祝日の場合はその翌日)

実写版『ゴールデンカムイ』

スマホDEスタンプラリー

実施期間：9月7日(土)～11月4日(祝・月)

二風谷コタンを中心とした9か所を巡って完成を目指すデジタルスタンプラリー実施中！完走者にはオリジナル壁紙をプレゼントするとともに、抽選でオリジナルトートバックをプレゼント！Wチャンスも…！



2024年 10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2024年 11月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2024年 12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2025年 1月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

博物館・歴史館 特別展

博物館 特別展

歴史館 休館日

博物館休館日

博物館・歴史館休館日

シシムカ文化財だより No. 24

2024年 10月 25日 発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

